



問一 「表象構築」について、簡潔にまとめる設問です。「表象構築」とは、耳慣れない言葉かもしれませんが、この文章を読む上でのキーワードです。冒頭から挙げられている、様々な例を手がかりに考えましょう。正答率が高く、きちんと理解できた受験生が多かったです。

問二 表象構築の二つのレベル、つまり「テキストベース」と「状況モデル」の違いを理解した上で、具体例を考える設問です。正答率が半分以下で、難しく感じられたようでした。読書をするとき、頭の中でどのような「表象構築」が起こっているか、考えながら選択肢を吟味してください。

問三 「られる」の用法を問う設問です。波線部 A の「答えられる」が「～できる」という意味を持つことに気付けば、正解が選べるでしょう。

問四 空欄 2 は、「テキストベース」の理解を問うために作られた「質問」（→本文中の第一問）になっています。「文章に書いてある内容」から判断するのが「テキストベース」の表象構築だという点を踏まえて、短文をよく読んでみましょう。「『玄関の外』あるいは『家の外』」という「答え」から、どんな「質問」なのか、考えてみて下さい。

問五 問四と同じ短文を読み、「状況モデル」の理解について説明する設問です。本文中の第二問（「何月何日の出来事～でしょうか」）に答えるためには、「文章中には一文字も書いて」いない要素が求められます。傍線部③の二行後にある具体例を生かしながら、「除夜の鐘」を表していることを、「という知識」につながる形でまとめましょう。本文をそのまま書き写すのではなく、30 字に分かりやすくまとめられたかがポイントとなります。「状況モデル」そのものについて説明した解答もありましたが、ここでは、何月何日の出来事か、に答えられる具体的な要素が必要なので、設問の意図についても、よく考えてみましょう。正答率が 43% で、部分点は多かったものの、満点の正解者が少なかったです。考えていることを過不足なく表現できるかで、点数に開きが出た設問です。

問六 傍線部④の「『引き出し』のイメージの問題点」について、「※」の母子の会話に基づいて具体例が色々挙げられていますが、それらをまとめている部分に着目します。「引き出し」のイメージを使って、ラベルをつけて分類する方法では、「私たちの知識の柔軟さをうまく表現することができ」ないのが問題点になります。そのことを踏まえた選択肢を二つ見つけましょう。

問七 空欄 3 は、直後の「～という具体例」がヒントになります。必要な知識にたどり着くために、どのようなプロセスをたどるか、「※」の母子の会話、その後続く「果物」と「アボカド」との関係が理解できれば、正解できます。誤答として、「カボス」、「サラダ」、「緑の果物」などがありました。

問八 傍線部⑤「思い出す」について、正しい説明を選ぶ設問です。人間の記憶が「引き出し」のイメージではなく、つながり合う「ネットワーク」のイメージであるという説明が続く文脈で、「思い出す」の意味が問われています。傍線部の直後にも、情報が活性化されてネットワークが広がるという説明が繰り返されていることに気付けば、正解を選べます。

問九 空欄 4 は、「※」の母子の会話から探します。空欄の直後の言葉「(私の～ありませんよ)」がヒントになります。母と子でネットワークに、ズレが生じていることから出る言葉が正解となります。

二

問一 一見ほめ言葉ではなさそうな「変な子」という言葉に対して、「リーナ」が「嫌な感じがしない」と思った理由を問う問題です。友人たちとのやり取りから関係性を読み取りましょう。正答率の高かった設問です。

問二 「夜に見る夢」は、そのとき現実に起こっているわけではありません。また、傍線部の直後にある「いつもそばにある」という表現もヒントにして考えましょう。

問三 「本田さん」の様子を傍線部だけでなく、周辺からも読み取りましょう。傍線部の二行後に「『どうしてか、聞かないの?』」とあり、話したくないわけではなさそうな様子がわかります。また、空欄 A の二行後に「キッとにらまれたけど、目に力はある限りなかった」とあり、強がっている様子も見受けられます。

問四 空欄前後の話の流れをつかみましょう。空欄 A の前では、小さい頃からダンスを習っていたことを話しています。空欄 B の前では、「『特別な人になりたかったの』」という言葉が語られています。

問五 「『お疲れ様』」と「リーナ」に言われ、「本田さん」は立ち止まります。直後に泣き出していることも踏まえましょう。正答率の高かった設問です。

問六 ここでは「いたわる」や「ねぎらう」といった言葉がぴったり合います。普段なかなか使わない表現かもしれませんが、知っておくと良いでしょう。

問七 まず、「晴ればれ」とはわだかまりがなくなってすっきりしているさまを表します。さらに、どのような経緯で「本田さん」のわだかまりがなくなったのかを字数に合わせて説明しましょう。

問八 傍線部の直前と直後にある「本田さん」のセリフを参考にして考えましょう。「本田さん」が現状を前向きに捉えていることが読み取れます。

問九 「『楽しめるってだけで特別じゃない?』」という「直」の言葉で、「リーナ」と「本田さん」は何か気づきます。直前で「本田さん」は「『上手なほうが、かっこいいじゃない』」と言い、直後で「リーナ」は「ウクレレを上手になりたいばかりで全然楽しんでなかったな」と思っています。あとは、空欄 a、b に当てはまるように表現を考えましょう。

問十 「ばかり」の用法を問う問題です。「上手になりたいばかり」の「ばかり」は、それだけに限定している言い方ですので、同じ用法のものを判断しましょう。

三

①「墓参」は「散」や「山」、③「圧巻」は「感」、「観」の誤りが多く、差がつかまりました。④「勤務」は、細部まで正確に書けたかどうかで差がつかまりました。語彙力をつけるとともに、習った漢字を使う熟語は書けるように練習しましょう。